

巻頭によせて



校長 北 村 聡

Kitamura Satoshi

岡倉天心はその著書『茶の本』の中で「ものの真に肝要なところはただ虚にのみ存すると（老子は）主張した。例えば室の本質は、屋根と壁に囲まれた空虚なところに見出すことが出来るのであって、屋根や壁そのものにはない。水差しの役に立つところは水を注ぎ込むことのできる空所であって、その形状や製品のいかんには存在しない。」「おのれを虚にして他を自由に入らすことのできる人は、すべての立場を自由に行動することができるようになるであろう。」と述べています。

自分の考えと異なった意見を先ずはきちんと聞くことは、容易いようで、実際にはつい途中で反論したい衝動に駆られるのです。とかく現代社会においては「自分の意見をはっきり言う」ことが奨励されていますが、これは決して相手の意見を聞かない事を奨励しているではありません。議論に不慣れな日本人は、自己主張が始まるとついつい「人の意見を聞かない」状況になりがちです。次第に感情的になり、人間関係まで危うくなることがあります。

本来議論は議論であって、お互いの人間的価値を否定するものではありません。人の考えを聞くとき、自分の心の中に大きな「空洞」をイメージしてはどうでしょうか。「空洞にどんどんほうり込む」イメージです。先ずは人の意見を十分に聞き入れることを心がければ、案外その中に自分の向上に役立つヒントのようなものを発見できるかもしれません。その上で、冷静に自分の考えを相手に伝えることです。

今後は、様々な場面で外国の人々と接する機会がますます増えることでしょう。全く異なった文化環境で育った人たちとも、理解し合いながらつきあってゆかなければなりません。今日まで一部の職業や立場の人の心得であった事が、今や多くの人々に求められる時代になりました。

先ずは心を空洞にして、相手の考えを聞いてみようではありませんか。